（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和２年度　学校自己評価システムシート（県立坂戸高等学校）

目指す学校像	文武に秀で、地域に愛され、国際感覚豊かな人材を育てる学校

重点目標	
	１　確かな学力の向上と高い志を育む教科指導と進路指導の充実
	２　リーダー育成を図る特別活動と部活動の充実
	３　開かれた魅力ある学校づくりの推進

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	
A	ほぼ達成（８割以上）
B	概ね達成（６割以上）
C	変化の兆し（４割以上）
D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学校自己評価				年度目標			学校関係者評価
				年度評価（　月　日　現在）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	（現状） 自習室や教室での朝自習、予習を前提とした学習サイクルを意識付けた家庭学習に取り組む習慣は、ある程度定着している。また、自主的な授業研究や研究協議を実施している。 （課題） ①家庭学習を習慣化させ、自学自習の姿勢を確立させる必要がある。 ②授業の質の向上を目指し、授業改善につなげてく。大学入試改革、新学習指導要領への対応を踏まえた活発な議論を積み重ねながらカリキュラムマネジメントを推進する。	①進路実現のための生徒の意識改革 ②質の高い授業実践のための組織的な授業改善の取り組み	①朝・放課後自習、隙間時間学習を奨励し、学校生活手帳を活用した時間管理を図る。１９時３０分完全下校を徹底する。 ②AL や ICT 活用などを積極的に活用した授業改善と自主授業研修会を推進する。また、授業アンケートや学習状況調査、実力テストや模試の分析を実施し、生徒の学力を把握する。 ②指導法や教材の共有化・全教科の定期考査の統一化により、評価の改善を図る。 ※県教委指定事業：「主体的・対話的で深い学びを実現する校内組織マネジメントの向上」「教育課程研究事業（総合進学指導拠点校）」	①授業アンケートにより学習時間量調査を実施し、各学年で学年数以上の学習時間量があったか。 ①GoogleClassroom へ全校生徒が参加し、十分に活用されたか。 ②授業改善に向け、授業公開を年３回以上、自主的な授業研究、組織的な研修会及び研究協議を実施できたか。 ②全教科において定期考査の統一化により評価を改善し、併せて３観点別評価の在り方について協議できたか。 ②県事業の連携により授業改善が進み、授業アンケートによる満足度が図れたか。				
	（現状） きめ細かな進路指導体制により、生徒の授業理解度、学校満足度は８割を超え、保護者の進路への関心は高い。 （課題） 国公立大学及び難関私大への進路実現、首都圏大学定員厳格化への対応のため、最新情報に基づく適切な指導体制を充実させ、さらにきめ細かい指導を行う必要がある。	①難関大学への進学を目標とした組織的な進路指導の取組 ②持続した高い志の育成	①実力テストや各種模試の結果分析をその都度おこない、指導方法の工夫・改善、個別進路指導に活用する。また、部顧問とも連携を密にし、多方面から生徒の指導・支援を行う。 ①大学入試の情報や分析について教員が十分理解し、進学指導や進路指導を組織的に行う。 ②国、県や民間企業等の事業への積極的な参加を支援し、生徒が広い視野をもつ人材育成を行う。 ※県教委指定事業：「学校地域WIN－WINプロジェクト」	①共通テストの受験者割合９０％以上、進路目標校を「国公立大学及び難関私立大学」に設定し、国公立大２０人以上、中堅以上の私立大学６０人以上の合格及び、希望進路の実現を目指させることができたか。 ②参加した生徒の積極的な行動変容やアンケートによる生徒の満足度が８０％以上あったか。				
2	（現状） 学校行事を生徒が主体的に運営しており、本校の魅力の一つとなっている。部活動と学習の両立を指導しており、保護者の連携を強化している。 （課題） ①行事の運営に関する業務内容の精選、目的の明確化と運営規定づくりが必要である。 ②生徒自身が明確な目標を持ち、生活の質の向上を意識させる必要がある。	①生徒の多様な可能性を踏まえ、行事の効率化と主体的に活動する生徒の育成 ②生徒の自己管理能力の向上	①活動マニュアルを改善し、実施時期・役割分担・作業日程の見直しを図り、生徒会役員への参加を促す。 ②活動記録を生徒間で共有し、主体的に効率的でかつ、効果的な部活動を実施する。各学期の部顧問会議で情報共有を図る。 ②保護者の進路理解と学校との連携を深める。	①各行事における行程表とマニュアルを改善することができたか。生徒会役員を 10 人育成する。 ②「学校生活手帳等を活用し、自己管理と計画的な学校生活を送れている」と回答しや生徒が８０％以上あったか。 ②担任と各部顧による生徒情報を共有化し、より生徒理解につながることで多方面から生徒の指導・支援を行うことができたか。 ②進路希望の確定と出願指導状況について、保護者と共有できたか。				
3	（現状） 本校の活発な教育活動について、ホームページ（ＨＰ）を中心に中学生や地域へ情報発信している。校種間連携事業（近隣小学校）が定着し、地域に愛される学校として位置づけられている。また、創立５０周年記念事業の滞りない実施を目指している。 （課題） ①本校の教育力の高さを十分に発信できるよう、更なるＨＰの充実を目指す必要がある。 ②保護者への情報提供と創立５０周年記念事業の組織的な運営を実施していく必要がある。	①教育情報の発信力の向上 ②保護者への適格な情報提供と家庭との連絡強化	①リアルタイムで学校行事や部活動等の教育活動の情報を積極的に発信する ②学校カレンダーの活用、「スマート連絡帳」の導入により、保護者にタイムリーな情報を提供する。学校行事や公開授業・HR 懇談会・保護者面談への参加者を増やす。	①ＨＰの構成の見直しと内容をより充実させ、学校理解と生徒募集によりつなげることができたか。 ①連携事業での内容の精選と充実を行うことができたか。 ②保護者の学校行事への参加者数、授業公開や HR 懇談会、保護者面談の参加数を昨年度より増やすことができか。 ②スマート連絡帳導入率が９０％を超えることができたか。 ②創立５０周年記念事業をＰＴＡと連携して進めることができたか。				